

小笠原諸島で採集されたオグロイワシ

Sardinella melanura の再記載

林 公義*・萩原清司**・佐藤寅夫***

Redescription of *Sardinella melanura* from the Bonin (Ogasawara) Islands, Japan

HAYASHI M.*, HAGIWARA K.** and
SATO T.***

著者らは1991年3月に実施した小笠原自然環境現況調査(東京都立大学受託)に参加し、父島・兄島および母島沿岸域の魚類相調査を行った。調査によりニシン科、サッパ属(*Sardinella*)のオグロイワシ *S. melanura* (CUVIER, 1829) が採集され、検討の結果本種は KISHINOUE (1911) が小笠原の父島から新種 *Clupea oguro* として報告して以来、日本沿岸域からは未記録であることがわかった。KISHINOUE (1911) の記載が簡略であることから、本報では今採集資料に基づき、本種の再記載を行った。記載と計測部位については CHAN (1965a, b), WHITEHEAD (1967; 1985) を参考にした。なお計数値は70%エチルアルコールに保存した資料による(横須賀市自然博物館魚類資料・YCM-P)。

Sardinella melanura (CUVIER, 1829)

(和名: オグロイワシ・第1図)

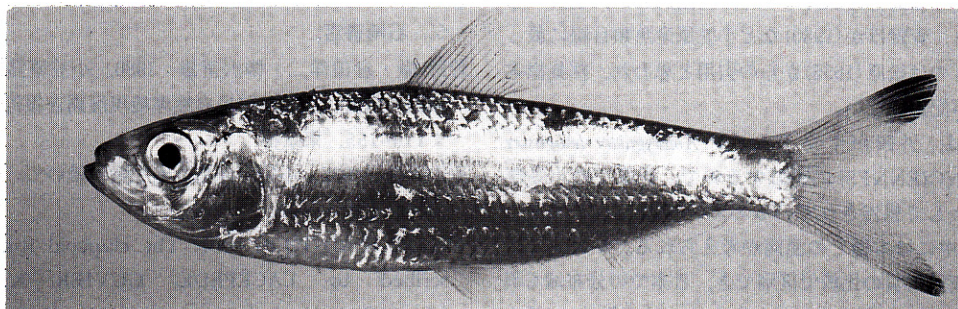
Clupea melanura: CUVIER, 1829 : 318 (on LACÉ-

PÈDE's *Clupanodon sinensis*, type from Asia)

供試標本 YCM-P25294, 22個体, 体長64.3-83.9mm, 小笠原諸島母島沖港の碎波帯, 投網採集, 萩原, 19910312; YCM-P25358, 3個体, 体長65.2-67.5mm, YCM-P25359, 1個体(写真資料), 体長69.5mm, (採集地・方法・採集者同上), 19910314; YCM-P25439, 1個体, 体長129.7mm, 小笠原諸島父島宮之浜の碎波帯, 投網採集, 萩原, 19910318.

記載 体はよく側扁し, 腹側面は著しい; 腹中線上に竜骨隆起状の強い稜鱗がある; 上顎の縫合部に欠刻はない; 主鰓蓋骨に骨質の条線がない; 背鰭の最後軟条と臀鰭の最後軟条は延長しない; 第3鰓弓の上枝には鰓耙がある; 鰓孔の後縁には2個の肉質状突起がある; 頭頂部に7対以上の骨質の条線がある(本種では8-9対); 背鰭前部の背中線上の鱗は2列からなる; などサッパ属の共有形質がよく認められ, CHAN (1965b) の *S. melanura* の記載と一致する。形質計数値を次に示す。計数値は体長に対する%で示し, () 内数値は最大体長個体(YCM-P25439)の数値を示す。

背鰭 16-17 (17); 臀鰭 19 (19); 胸鰭 14-15 (14); 腹鰭 8 (8); 第1鰓弓下枝鰓耙数 54-61 (61); 縦列鱗数 40-41 (38); 横列鱗数 11-12 (11); 背鰭前部鱗数 16; 腹部稜鱗数(腹鰭前部+腹鰭後部) 18+11-18+12 (18+12); 頭長 25.2-27.9 (25.2); 上顎長 10.1-11.7 (10.1); 眼径 8.0-8.7 (6.7); 吻長 9.2-9.6 (8.6); 眼後長 10.2-10.9 (10.2); 両眼間隔 5.7-6.4 (5.7); 鰓蓋幅 8.9-9.9 (9.3); 体高(背鰭基底始部) 25.9-29.3 (29.3); 体高(臀鰭基底始部) 18.1-20.7 (20.2); 尾柄高 9.7-11.6 (10.2); 吻端-背鰭基始部 44.9-47.3 (46.1); 背鰭基始部-臀鰭基始部 55.6-57.2 (56.5); 背鰭基



第1図 オグロイワシ *Sardinella melanura* (CUVIER), YCM-P25359, 体長69.5mm, 母島沖港。

* 横須賀市自然博物館 Yokosuka City Museum, Yokosuka, 238.

** 鹿島技術研究所葉山水産研究室 Hayama Marine Science Laboratory, Kajima Technical Research Institute, Hayama, 240-01.

*** 東京大学理学部附属臨海実験所 Misaki Marine Biological Station, University of Tokyo, Miura, 238-02.

原稿受付 1991年9月20日 横須賀市博物館業績 第421号。

キーワード: 再記載, 分布, ニシン科 Key words: redescription, distribution, Clupeidae

底長 14.3-15.3(14.4); 背鰭最長軟条 17.0-19.5(17.0); 吻端-臀鰭基部 74.1-76.6(76.4); 臀鰭第3軟条長 5.3-6.9(5.5); 最終臀鰭軟条長 4.3-4.7(4.3); 吻端-胸鰭基部 25.4-28.0(25.4); 胸鰭長 16.6-17.4(16.9); 吻端-腹鰭基部 50.5-52.4(50.5); 腹鰭長 11.5-12.5(11.0); 尾鰭長 25.4-29.3(26.9)

生時の体色は主に銀灰色で、背面は暗緑青色である。眼上部から吻部にかけては透明感が強く、上顎と下顎の先端部が黒い。尾鰭上・下葉は先端から4分の1が黒く、特に上葉は明瞭。尾鰭以外の各鰭は透明。瞳孔は黒色。

備考 本種は KISHINOUE (1911) が、小笠原の父島を模式産地として新種記載した *Clupea oguro* と同一種である。松原 (1955) は、この *C. oguro* を *Sardinella* 属に移し、*S. melanura* (CUVIER) のシノニムとし、新称オグロイワシを与えた。小笠原では鰹釣りの餌として大量に捕れる本種を俗称でオグロイワシと呼んでいたことが KISHINOUE (1911) に記されている。WHITEHEAD (1967; 1985) は本種のシノニムとして、*Clupeonia commersoni* VALENCIENNES, 1847; *Clupea otaitensis* VALENCIENNES, 1847; *Clupeonia vittata* VALENCIENNES, 1847; *Harengula vanicoris* JORDAN et SEALE, 1906; *Sardinella nigricaudata* CHAN, 1965; *Herklotsichthys vittatus* WHITEHEAD, 1965 などを採録しているが、KISHINOUE (1911) の *Clupea oguro* は引用されてない。従って本種の分布域としては日本の沿岸域が含まれていない。WHITEHEAD (1985) によれば、本種はインド-西部太平洋域(アデン湾南~マダガスカル・モーリシャス諸島、インドネシア~ニューギニア・サモア諸島)に広く分布する。日本沿岸域での本種の記録は小笠原諸島付近以外になく、遠山 (1937)、座間・藤田 (1977)、菅野ほか (1980) など小笠原産魚類目録に載っているものは松原 (1955) からの引用と思われ、採集標本による再記録はない。

本種は、外観がヤマトミズン *Amblygaster leiogaster* (VALENCIENNES) に類似するので、今までの小笠原産魚類として報告されているミズン(現和名はヤマトミズン)の中には本種との混同が考えられる。ヤマトミズンとは属間形質の比較で区別でき、日本での分布域も異なる。また西部太平洋域(主に台湾・香港海域)に分布し、尾鰭先端部が黒く、外観が *melanura* と類似するものに同属の *S. hualiensis* (CHU et TSAI, 1958) がいるが、背鰭基部に1黒斑があること、鱗の後部に小孔があることなどで本種と区別できる。CHAN (1965b) によって新種記載された *S. nigricaudata* は、*melanura* に極めて外観が類似するが第1鰓弓の下枝鰓耙数(37-43 vs. 68)で

両種は区別されるとし、*melanura* の鰓耙数が少ないことを特徴にあげた。しかし WHITEHEAD (1985) は *melanura* の下枝鰓耙数(38-74)に変異を認め、CHAN (1965b) の *nigricaudata* を *melanura* のシノニムとしている。本採集資料の下枝鰓耙数は54-61の範囲にあり、この点だけが CHAN (1965b) の *melanura* とは一致しないが、本報では WHITEHEAD (1985) に従い本種を *melanura* と同定した。

本稿を進めるに当たり、助言をいただいた瀬能 宏氏(株・益田海洋プロダクション)、文献調査に協力いただいた佐野光彦氏(東京大学農学部水産学科)、採集協力をいただいた関藤 守氏(東京大学理学部附属臨海実験所採集室)に対し、深謝いたします。

引用文献

- CHAN W.L. 1965a. A systematic revision of the Indo-Pacific clupeid fishes of the genus *Sardinella* (Family Clupeidae). *Jap. Jour. Ichthyol.*, **12** (3-6): 104-118.
- CHAN W.L. 1965b. A systematic revision of the Indo-Pacific clupeid fishes of the genus *Sardinella* (Family Clupeidae). *Ibid.*, **13** (1-3): 1-39.
- CHU K. and TSAI C. 1958. A review of the clupeoid fishes of Taiwan, with description of a new species. *Quart. Jour. Taiwan Mus.*, **11** (1-2): 103-125, pl. 1-3.
- CUVIER G.L.C.F.G. 1829. *Regne Animal*, 2nd ed., **2**: 406pp., Paris.
- KISHINOUE K. 1911. Description of the clupeoid fishes from Ogasawara or Bonin Islands. *Coll. Agr., Imper. Univ. Tokyo*, **2** (7): 383-386, pl. 30.
- 松原喜代松 1955. 魚類の形態と検索・I. xi+789ページ. 石崎書店.
- 菅野 徹・倉田洋二・柳沢富雄 1980. 小笠原諸島の魚類相の概要. 小笠原諸島自然環境現況調査報告書(1): 119-155. 東京都.
- 遠山宣雄 1937. 小笠原群島近海生物に就いて. 東京府小笠原支所: 1-93.
- WHITEHEAD P.J.P. 1967. The clupeoid fishes described by LACÈPEDE, CUVIER & VALENCIENNES. *Bull. British Mus. (Nat. Hist.) [Zool.]*, Suppl. 2: 1-180, 11 pls.
- WHITEHEAD P.J.P. 1985. FAO species catalogue. Clupeoid fishes of the world. *FAO Fisher. Synopsis* 125, **7**, Part 1: i-x+1-303.
- 座間 彰・藤田 清 1977. 小笠原諸島産魚類目録. 東京水産大学研究彙報, **63** (2): 87-138, pls. 5-9.